

発掘調査の概要

藤原宮内裏東官衙地区・朝堂院東地区の調査

(飛鳥藤原第 133-11 次)

平成 17 年 1 月 11 日に標記の地区の発掘に取りかかりました。調査区の長さは 135 m に及び、広範な地区にまたがりますが、実はトレンチの幅がわずか 2 m にすぎません。調査地は橿原市高殿町の集落西方 70 m のところを南へ流れる水路にあたります。素掘の水路を改修して U 字溝を設置するという現状変更申請が持ち上がり、その事前確認調査のため、狭長な調査区となりました。調査区北端は内裏の南端東方、同じく南端は朝堂院東第二堂北半部東方にほぼ相当します。

今回の調査区両側はこれまで調査がなされておらず、この未調査区に長い試掘トレンチを入れたこととなります。その結果、すぐ脇を走る市道路面下 90 cm 前後のところ、藤原宮期と思われる掘立柱建物や掘立柱塀、石組の溝などが見つかりました。遺構の密度は低く、水路による削平のため遺構の残りもよくありませんでしたが、この地区の一端を窺うことができました。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 小池 伸彦)